

TOTO



TOTO水環境基金
TOTO Water Environment Fund

2023年度 助成先団体活動報告
2023年4月～2024年3月(第16・17・18回)



TOTO株式会社

(TOTO水環境基金事務局)

<https://jp.toto.com/company/csr/mizukikin/>



VEGETABLE
OIL INK
(2024年9月発行)



TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせません。そこで、TOTOグループは2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に継続して取り組む団体への支援を続けています。企業による一時的な物資や資金の支援だけではなく、団体を支援することで持続的な発展を目指しています。



TOTO水環境基金

TOTO Water Environment Fund

「TOTO水環境基金」の新しいロゴに込めた想い

水源のはじまりを象徴する「しずく」をモチーフに水の大切さを印象づけ、内包される青と緑で描かれた三角形の幾何学模様が、水と環境の密接さと、この取り組みが世界に波及していく様子をデザインしています。水が元来もつ美しさとともに、地球環境の大切さを伝える意図が込められています。

TOTO水環境基金のしくみ

ステークホルダーの皆様の想いに応じて拠出額を算出

お客様	節水商品のご購入による節水効果
株主様	株主優待制度による寄付
社員	ボランティア活動への参加人数
TOTO	上記3つの拠出へのマッチング

地域を支える団体を助成

地域に根差した水にかかわる環境活動を支援	
国 内	水環境や生物多様性の保全・再生につながる実践活動
海 外	水資源保護や衛生的かつ快適な生活環境づくりに向けた実践活動

社会課題への意識の向上



地域社会との協働



ステークホルダーの皆様の想いに応じて拠出額を算出

助成金は、お客様の節水商品購入による節水効果、株主様の寄付賛同、TOTOグループ社員のボランティア・寄付などの参加人数を金額換算し、TOTOのマッチングにより決定されます。ステークホルダーのかかわりが増すほど助成金が増えていく仕組みです。

地域を支える団体を助成

グループ社員から選出された選考員が「水環境にかかわる課題を共に解決したい」という想いをもって、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、助成先団体を採択しています。助成先団体のネットワークづくりを目的とした「助成先団体交流会」を毎年開催しています。



地域社会との協働

助成先団体の活動に地域の方とともに、TOTOグループ社員も参加しています。助成期間終了後も、助成先団体をはじめとする地域の皆様との交流は続き、年々活動の輪が広がっています。



社会課題への意識の向上

TOTO水環境基金とのかかわりをきっかけに、社内外のステークホルダーの社会課題に対する意識が向上することで、活動の輪が大きく広がっていきます。

2023年度 TOTOによる活動支援



助成金 総額
2,711 万円

助成によって団体が実施した活動の成果

助成先団体
20 団体

活動回数
870回

活動参加人数
14,327人
うちTOTOグループ参加人数 **212人**



ゴミ回収量
33,629kg

植樹本数
19,358本



保全整備した面積
15,200.248m²

有害生物の駆除・除去(動・植物)
23,900匹・250kg



環境・衛生教育参加人数

42,443人

海外設備設置(トイレ、手洗い、給水タンクなど)
43基

第18回(1年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	小泉ユニバーサルビーチユニット	水環境を整え自然界を保全していくまちづくり —海・山・川・ビオトープがある町—	宮城県気仙沼市	7
2	庄内自然博物園構想推進協議会	市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生と地域文化の継続の可能性の検討	山形県鶴岡市	8
3	NPO法人 さざなみ	とりもどせ!ぼくたちの海	千葉県習志野市	9
4	認定NPO法人 エバラスティング・ネイチャー	絶滅危惧種であるウミガメ類の海洋ゴミ誤食調査と普及啓発	小笠原、関東地域	10
5	公益財団法人 水島地域環境再生財団	瀬戸内海の守り人“海ボウズ”育成プロジェクト	岡山県倉敷市	11
6	NPO法人 エー・ビー・シー野外教育センター	子どもたちのウエス作りが別府市の水環境を変えていく!	大分県内	12
7	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	豊かな水環境を目指す別府湾エココーストプロジェクト	大分県大分市・別府市・日出町・杵築市	13
8	公益財団法人 アジア協会アジア友の会	住民主体のごみ管理 クリーンでグリーンな地域・学校・水環境のために	フィリピン ソルソゴン州	14
9	認定NPO法人 ウォーター・エイド・ジャパン	インド ピハール州における水・衛生プロジェクト	インド ピハール州 バーガルプル県	15
10	認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構	教えて!トイレにまつわる保健と衛生について	エチオピア 南エチオピア州	16
11	認定NPO法人 道普請人	泉の保護、植林を通じた強靭なコミュニティ整備	ウガンダ共和国 ムコノ県	17
12	NPO法人 コンフロントワールド	ウガンダでのトイレ建設、貯水タンク建設、石鹼生産	ウガンダ共和国 ブタンバラ県	18
13	一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク共和国・紛争避難施設の水環境整備活動	モザンビーク共和国 カーボデルガド州	19

第17回(2年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
14	NPO法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク	あいの里でトンボを指標に豊かな水環境をつくろう!	北海道札幌市	20
15	認定NPO法人 改革プロジェクト	子どもの意欲を育む環境教育プログラムの展開	福岡県宗像市	21
16	一般社団法人 ふくおかFUN	「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成プロジェクト	福岡県福岡市	22

第16回(3年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
17	NPO法人 オオタカ保護基金	サシバの里ハスの花咲く水辺と生きもの復活プロジェクト	栃木県芳賀郡	23
18	NPO法人 おちかわの里	落川交流センター・森と水の再生事業	東京都日野市	24
19	NPO法人 暮らし・つながる森里川海	湖南いきもの楽校プロジェクト 「子どもが元気、生き物元気、地域が元気」	神奈川県平塚市	25
20	NPO法人 環境とくしまネットワーク	せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」再生化プロジェクト	徳島県全域・香川県東部地域	26

2023年度 助成先団体活動地域(国内)



2023年度 助成先団体活動地域(海外)



1

小泉ユニバーサルビーチユニット

[代表者] 中館 忠一

活動地である気仙沼市小泉地区は、東日本大震災で町全体が被災しました。

震災から9年が経過した2019年には小泉海岸海水浴場がオープンしましたが、住民の津波体験による海離れは深刻で、更に、県内最大高の防潮堤も相まって訪れる方はいません。そこで誰もが安全に楽しめるような海岸づくりに加えて、小泉地区全体の賑わいづくりなどを目的として地元有志が発起人となり、当団体を設立しました。



海岸清掃に参加した子どもたち

水環境を整え自然界を保全していくまちづくりー海・山・川・ビオトープがある町ー

◎活動地域 | 宮城県気仙沼市本吉町

◎助成期間 | 1年目



小泉地区ではゴミ問題も抱えており、今までに清掃活動を実施してきましたが活動するメンバーが固定され、地域における交流もあり無いのが現状です。「水環境を整えること」が、生きること・未来に残すこと・自然界を守ること、この全てに繋がるという想いを住民達と共にし、海・山・川・ビオトープ全てがある小泉地区を住み続けられる町にするため、住民・他団体・行政を巻き込んだ清掃活動や探鳥会事業を実施していきます。

実施結果

チラシ・ポスターでの参加呼びかけの効果があり、6歳～80歳までの新規参加者が来てくれました。また、他団体・行政・小中学校も積極的に参加してくれたことで連携も向上しました。発見としては、新たな活動地域とした蕨野川・外尾川・田束山も沢山のゴミがあることがわかりました。1回参加した人は2回目も来ることがわかりましたが、住民参加率はまだまだ低いと思っています。今回子供向けに新たにチャレンジした「宝探しビーチクリーン」など、集客のための魅力ある清掃活動を考案し、水環境に対する住民の意識をもっと上げていきたいと考えています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	10回	10回
活動参加人数	885人	400人
ゴミ回収量	4,000kg	5,800kg
保全整備した面積	—	29,700m ²



小泉海岸清掃

► 活動に関わった方の声

《小学校3年生》
いっぱいゴミを拾えたり、お宝とも交換できて嬉しい。

《教員:20代男性》
授業で課外授業があり、野鳥などの知識を取り入れたかった。望遠鏡で見る鳥は一度見たら忘れない光景でした。

《30代男性》
同級生がKUBU(団体の略称)に入っていて、一緒に清掃活動しないかと誘われて来ました。いつも通っている道を少し入るとこんなにゴミがあるとは思わなかった。これから入会してこのような活動に参加していきたいです。

《60代男性》
子供たちが小さいころからこのように楽しく清掃活動をやることで、未来が少しでもよくなっていくかもね。おじさんも頑張らないといけないね!



探鳥会

2 庄内自然博物園構想推進協議会

[代表者] 櫻井 修治

第18回
1年目
国内

庄内自然博物園構想推進協議会は、「都沢湿地や高館山、大山上池・下池を自然学習のフィールドとして、子どもたちをはじめ市民みんなが自然との一体感を享受できるように、自然と触れ合う機会を創出しよう」という願いから、2011年設立されました。その理念のもと、市民がいつでも気軽に学習し、豊かな自然環境や生態系が維持され、安全安心な活動ができるよう、「鶴岡自然学習交流館ほとりあ」を開設し、さまざまな取り組みを行っています。



全国ヒシサミット

市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生と地域文化の継続の可能性の検討

◎活動地域 | 山形県鶴岡市大山地域(大山下池、都沢湿地)

◎助成期間 | 1年目

本プロジェクトでは、これまでの事業を継続するとともに、湿地の水源地である「ため池」に生育するヒシやレンコンの活用を進め、市民による富栄養化の池への水質改善を目指します。この取り組みは、江戸時代から続く浮草の権利を持つ浮草組合の活動継続を支援することになり、環境保全活動が地域の文化の存続につながることも期待されます。また、水質改善には、周辺地域の竹林の保全活動で生まれた竹炭を活用した濾過システムを導入し、広範囲な地域の資源循環を目指していきます。

実施結果

事業は計画通り実施することができました。特に湿地資源の活用については、レンコンは昨年度の約5倍ほどが活用され、地元の保育園の給食などで提供され、「食」を通じた湿地教育に繋がっています。また、ヒシについても昨年度は関係者のみが採取していましたが、今年度は4歳から70歳までの幅広い人が参画し、調理するところまで体験することができました。その結果、浮草の権利を持つ浮草組合の活動や組合員のモチベーションも高まりましたが、株を持つ組合員に決定権があり、幅広い世代の組合員の合意形成まではたどりつけませんでした。環境保全を通じて存続させていく地域文化とは「組織」なのか「活動」、はたまた「景色」なのか、当会でもしっかり議論していくことが必要だと感じています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	42回	▶ 48回
活動参加人数	1,750人	▶ 2,021人
ゴミ回収量	50kg	▶ 85kg
保全整備した面積	2,500m ²	▶ 2,500m ²
有害生物の駆除・除去	10,000匹	▶ 23,900匹 アメリカザリガニ、アーリセンダングサ、セイタカアワダチソウなど
環境教育参加人数(のべ人数)	1,000人	▶ 1,282人



湿地保全管理イベント

♪ 活動に関わった方の声

《4歳、女の子》
はじめてボートに乗って楽しかった。

《大学生》
今回はミズアオイの保全活動だったのでその他の植物は刈り取ったが、地域や目的に応じて選択的に刈り取っていくことを学べて良かった。

《30代女性》
池の中でヒシの実がどのようにしているのか初めて知った。

《60代会社社長》
湿地の植物が昔は食べられていたことに、びっくりした。来年は自分でもヒシの実を探してみたい。

《70代組合員》
浮草組合の未来について考えるよい機会になったし、未来に繋がると感じている。

3 NPO法人 さざなみ

[代表者] 島田 拓

第18回
1年目

国内

当団体は、地元習志野の海辺保全、里山の生物多様性保全、地域の方や学生・子供たちを対象とした環境教育など幅広い活動を行っています。「未来の子供たちのために少しでも身近な海を残したい」との思いから、2020年から有志が立ち上がり、1歩ずつ手作業で環境改善に取り組んでいます。



さざなみスタッフ一同

とりもどせ僕たちの海

◎活動地域 | 千葉県習志野市東京湾岸エリア

◎助成期間 | 1年目

14 水

東京湾奥の習志野埋立地の海辺において、人と自然が共生し、持続可能な水辺環境を維持できるよう海岸の保全活動、周辺住民への環境教育活動を行っていきます。定期的な海辺の清掃活動や水辺の生き物観察会などを通じ、未来を担う子供たちの生命へのあたたかい心、自身の住む街に暮らす意味や、一人の人間として責任を持った生き方ができるように自立した精神を育んでいきたいと考えています。また、当団体が主催する各種講演会や勉強会において、東京湾の環境保全に関する学術団体、教育機関、行政、地元企業などと協働し、豊かな水辺環境を実現させるための啓発活動、政策提言なども積極的に行っていきます。

実施結果

本年度はNPOさざなみ設立2年目の1年であり、今後の安定した運営に向けて重要な足場を築く1年でした。毎月恒例の海辺の定例清掃は安定して継続できましたが、定例外の清掃活動をもう少し回数を増やしていきたいと思っています。

年に2回のイベント(環境ミーティング、フォーラム)を開催できることは大きな成果でした。また、これまであまり行えなかった習志野市内に残された手つかずの干潟において、生き物観察会を開催することができました。

来年度はいよいよ実際の水辺づくりに向けた取り組みが始まるため、大きな基盤となる1年になったと思います。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	20回	▶ 20回
活動参加人数	700人	▶ 700人
ゴミ回収量	3,000kg	▶ 5,000kg
植樹本数	100本	▶ 100本 クヌギ・コナラ
保全整備した面積	10,000m ²	▶ 10,000m ²
有害生物の除去	100kg	▶ 100kg
環境教育参加人数(のべ人数)	200人	▶ 200人



茜浜海岸清掃

♪ 活動に関わった方の声

《50代男性》
茜浜は東京湾を一望できる穏やかな公園スポットですが、防波堤を乗り越えてテトラポットの間に覗くと多数のゴミが流れ着いていて、中には経年劣化でマイクロプラスチック化しているものが多く見られます。

私の勤務先では社員有志が集まり、勤務時間外に地域や社会に貢献をする活動を行っており、さざなみ様のご協力を得て総勢30名で清掃活動を行いました。

習志野に住んで20年以上が経ちましたが、これからも「自分ができるサステナブルに繋がる社会貢献は何か?」という自問自答を続けて、茜浜の清掃活動を続けて参ります。



習志野環境フォーラム



湿地資源の採取(レンコン)

認定NPO法人 エバーラスティング・ネイチャー

[代表者] 藤野 彰

当団体は、ウミガメ類の保全活動をしていた「インドネシアウミガメ研究センター」の日本窓口として設立され、2002年7月に神奈川県のNPOとして承認されました。現在、海洋ゴミ問題は世界規模の社会問題として深刻化しています。一方、海洋ゴミによるウミガメへの影響度やマイクロプラスチックに付着する毒素の影響、長期的な変動については未解明の状況であるため継続的なモニタリング調査が求められており、環境保全活動と併せて取り組んでいます。



小笠原中学生ゴミ拾い

©ELNA



絶滅危惧種であるウミガメ類の海洋ゴミ誤食調査と普及啓発



◎活動地域 | 小笠原、関東
◎助成期間 | 1年目

絶滅危惧種であるウミガメ類の人工物の誤食状況の実態調査を、小笠原で食用捕獲されるアオウミガメに対して実施し、併せて広く一般の方に海洋汚染の状況を実体験してもらうことを目的に、調査から得た海洋ゴミサンプルを用いた体験型イベントを開催します。他団体との新規コラボイベントや外部講師を招へいした講演会も実施し、新規参加者の獲得および対象者の拡充を目指します。当団体がこれまでに小笠原、関東でウミガメの生態調査や誤食状況の調査を実施してきたことから、その情報を地域還元していくという意図もあり、対象地域を関東および小笠原といたしました。

実施結果

小笠原諸島父島において食用捕獲されるアオウミガメの海洋ゴミ誤食調査(捕殺個体調査)、普及啓発イベント実施は計画通りもしくは計画書以上に進めることができました。しかしながら、小笠原での海岸清掃に関しては悪天候や海況不良などの影響を受け、規定回数、規定人数での実施に至りませんでした。不足分については2024年度も継続して実施していきたいと思います。また、普及啓発イベントに関しては、実施はできたものの思うように集客できず課題が残ったと感じており、オンライン会場も活用しながら、これらの課題に取り組んでいきたいと考えています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	41回	▶ 50回
活動参加人数	395人	▶ 180人
ゴミ回収量	—	▶ 25kg
環境教育参加人数(べ人数)	100人	▶ 113人

► 活動に関わった方の声

《ボランティア・大学生》

ウミガメの誤食調査では、人工物が入っている確率がかなり高くて驚いた。紐状のものが多くて、釣りなどの影響を想像した。

《ボランティア・大学生》

海洋ゴミは意図的に捨てたものが大半を占めるとは思わないが、わかりやすい総菜のごみなどが落ちていると少し憤りを感じた。

《社会人》

改めて、海洋ゴミの影響の大きさを感じました。長い目で見ると、いつか廃棄物になるものを産業は造り出していく、造る時点で環境に対する責任が発生しているのかなと、新しい視点を得られました。

公益財団法人 水島地域環境再生財団

[代表者] 石田 正也

倉敷市水島地域では、戦後、我が国を代表するコンビナートが建設され、高度経済成長を支えた一方で、公害問題が発生して倉敷公害訴訟が争われました。この和解金の一部を基金に、2000年3月「水島地域の生活環境の改善」を目的に水島地域環境再生財団(略称:みずしま財団)が設立されました。



海ボウズプロジェクト

©水島地域環境再生財団



瀬戸内海の守り人“海ボウズ”育成プロジェクト



◎活動地域 | 岡山県倉敷市
◎助成期間 | 1年目

11 12 13 14 15 16 17

(活動1)用水路ごみ回収「海ボウズ活動」の推進

倉敷市内の用水路のごみを定期的に回収します。実施にあたっては、参加者に瀬戸内海を守る「チーム海ボウズ」に登録してもらい、情報共有のためのLINEグループを立ち上げるなど、ボランティア活動を組織化して進めていきます。

(活動2)ホームページ、SNSを活用した情報発信

活動の呼びかけや、実施後の成果報告等をInstagram・Twitter・TikTok・facebook・LINEグループ等を活用して情報発信していきます。

(活動3)成果発表会の開催

ボランティア参加者による活動報告や水路ごみ削減に向けた意見交換を行うことで、成果を地域に広め、更なる活動の促進を目指します。

実施結果

毎月1回の取り組みを継続することで、延べ165人の参加があり、489kgのごみを回収できたことは、非常に大きな成果でした。ホームページ等を整備・活用することで情報発信を行い、地域での認識も広がってきています。

活動において地元の高校生や大学生が継続的に活動に参加する中で、自らの問題と捉える気風が生まれ、自分たちの探究学習として現状と課題など考えて発信をする等、人材育成にも成果がありました。今後は、回収活動を継続するとともに、参加者が日常生活の中でも海ごみ減量化に取り組めるよう、行動変容につながる働きかけに力を入れていきたいと思います。



家族で海洋ゴミを考える



親子で自由研究

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	13回	▶ 12回
活動参加人数	249人	▶ 189人
ゴミ回収量	—	▶ 489kg
環境教育参加人数(べ人数)	—	▶ 4,489人

► 活動に関わった方の声

《高校生》

清掃活動を行って、一定期間(約2ヶ月)でまたかなりのごみが回収されたことに驚きました。海や川でごみを回収することも大事だけど、もっとその先のごみを発生させないということを考えていかないといけないと思いました。

《大学生》

一見きれいな川にたくさんのごみがあることに驚いた。回収活動を通じて、身近な用水路でのごみ回収は、海にごみが流出するのを食い止める意味があることを実感することができた。

《20代女性》

ごみ拾いをトレジャーハントのように解釈することは、持続化していくためのハードル調整のヒントになるかと思いました。



回収したごみの分別・重量測定



海ごみ・プラごみ削減フォーラムでの展示

6 NPO法人 エー・ビー・シー野外教育センター

[代表者] 藤谷 将誉

当団体は、大分県内で「青少年の健全育成・社会教育の推進・国際理解の推進」などの活動を中心に諸事業を行っています。民間団体・大学教授・教職員・社会教育主事などからメンバーを募り、ボランティアや単発での活動に終わらない団体として事業展開を行っています。また、住吉浜リゾートパーク内に冒険教育プログラムの施設を持ち、人と人が関わりの中、コミュニケーション・リーダーシップ・チームワークなどテーマに沿ったプログラムを実施しています。



海の冒険プログラム参加者



子どもたちのウエス作りが別府市の水環境を変えていく!

◎活動地域 | 大分県内

◎助成期間 | 1年目

別府市は、別府湾と鶴見岳の狭いエリアに囲まれた温泉地ですが、下水道設備が市内全域に行き渡っておらず、一部の生活排水は未処理のまま海川へ流されています。しかし、そこに暮らす多くの小学生たちはその事実を知りません。そこで小学校を対象とした「生活排水についての学習会」と「ウエス作り」の授業を行います。自分達で作成したウエスを自宅へ持ち帰り、食器の汚れをふき取る活動を通じて「水環境」に関する啓発を行います。また、市内を流れる河川流域のゴミ掃除をすることで生活排水・ゴミ問題などに子どもたちや市民の意識を高めることを目的に別府市内の境川にてゴミ拾いイベントを実施します。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	31回	▶ 7回
活動参加人数	650人	▶ 175人
ゴミ回収量	15kg	▶ —

► 活動に関わった方の声

《環境授業での感想(小学4年生)》

- ・ゴミや汚れが川や海に行き、魚や鳥が死んでしまうことが分かった。これからはウエスを使ってキレイな環境にしたい。
- ・1ミリグラムの油を魚が住める水に戻すのに200リットルの水がいることに驚きました。
- ・ウエスが環境に良い事が分かりました。ウエスを使って汚れを拭いて石鹼や水を節約したいです。
- ・ウエスを使ってお皿を拭いて、魚が住みやすい海になるために自分ができることをやっていきたいです。



小学校への出張授業



衣服を切ってウエス作り

7 NPO法人 おおいた環境保全フォーラム

[代表者] 内田 桂

別府湾周辺では近年、高齢化・過疎化が進み、農村・漁村地域において自然環境の荒廃が進行しています。そこで大分県の豊かな生態系および生物多様性を保全し、健全な自然環境に修復、再生して次世代に継承する責務を担うために当団体はNPOとして設立されました。



ウミガメ放流イベント

第18回

1年目

国内



豊かな水環境を目指す 別府湾エコ コーストプロジェクト

◎活動地域 | 大分県大分市、別府市、日出町、杵築市

◎助成期間 | 1年目



本プロジェクトでは、別府湾における海洋プラスチックなどのゴミ問題解決のため、大分市田ノ浦ビーチ内に海洋環境教育の拠点を創出し、SDGs目標14(海の豊かさを守ろう)の達成に向けた啓発、教育活動を推進していきます。また、別府湾沿岸の住民とネットワークを構築し、定期的な海岸清掃や海岸植生の手入れなどを協働で実施し、健全な海岸生態系の保全を図っていきます。

SDGs啓発のための展示用パネル、資料等を制作および展示用パーティションを製作し、田ノ浦海浜公園レストハウス内に設置してSDGs啓発活動に活用しました。また、子供たちを中心とした次世代育成のための別府湾エコ コースト環境教育イベント(環境学習会、体験ワークショップ)を5回開催し、計243名の親子が参加しました。別府湾沿岸地域の5海岸を巡回して開催した当イベントは、他にも地元住民や大学生等の参加があったことにより、延べ514名の盛大なものとなりました。加えて、本助成プロジェクトにおいて協働で活動した3市1町の人たちに声をかけて開催した「広域協働ネットワーク交流会」には、NPO、地元住民、大学2校(学生5名)の方たちの参加が得られました。

実施結果



関の江海岸 ビーチクリーン



田ノ浦ビーチ SDGs環境教室

アジア協会アジア友の会は、「水」の供給から始まり、現地からの要請を受けるかたちで、「環境保全」「教育支援」「生活自立支援」に関する活動を行ってきました。地域の課題解決のために、4分野の事業を中心に必要な事業を組み合わせ、地域の自立を目指しています。また、日本国内においても、アジアや支援活動に関心を持つてもらうための啓発・広報活動を実施しているほか、全国の会員がアジア支援や活動の輪をひろげるためのチャリティイベント等を行っています。



「Clean As You Go」活動参加者

©アジア協会アジア友の会

清潔な水、衛生的なトイレ、正しい衛生習慣。健康で尊厳ある暮らしに欠かせないこの3つを届けることで、ウォーターエイドは世界でもっとも貧困で、社会的に取り残されがちな人びとの暮らしの改善を図っています。水・衛生分野の専門性を活かし、現在では、世界34か国に拠点を置き、アジア、アフリカ、中南米など計26か国で水・衛生プロジェクトを実施しています。



母子保健センターでの衛生研修

©ウォーターエイドジャパン



住民主体のごみ管理 クリーンでグリーンな地域・学校・水環境のために

◎活動地域 | フィリピン ソルソゴン州マトノック町 カマチレス村及び近隣の村

◎助成期間 | 1年目



実施結果

ごみ処理システムが整わないフィリピンの農村において、ごみの分別とリサイクル、堆肥化促進により、不衛生な生活環境や水環境を改善します。前年度に活動した村を拠点に、近隣の村や学校等、より広範囲での活動を展開していきます。特に未来を担う子どもたちやその保護者の環境意識を高め、将来にわたって地域や地球の水環境の保全活動に取り組む環境づくりにつなげていきたいと考えています。

また、有機肥料を使った安全な野菜の栽培や地域の緑化により、成長期の子どもたちの栄養改善や収入の少ない家庭の暮らしを支えることで、事業が地域に定着し継続するよう推進します。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	150回	▶ 440回
活動参加人数	4,960人	▶ 5,833人
ゴミ回収量	2,600kg	▶ 18,950kg
植樹本数	300本	▶ 1,036本 パパイヤ、アボカド、カラマンシー、マンゴーロープ他
保全整備した面積	10ha	▶ 15ha
環境教育参加人数(のべ人数)	730人	▶ 3,316人
「堆肥化設備・農園」設置	4基・4箇所	▶ 4基・4箇所
受益者数(実人数)	1,000人	▶ 5,696人
衛生教育参加人数(のべ人数)	730人	▶ 3,316人



きのこ栽培研修



子どもたちによるクリーンアップ活動

► 活動に関わった方の声

《アイザ・ガラルデさん:30代・主婦》

私たちはセンターで堆肥の作り方を学び、支援していただいた機材と苗木で学校に農園を作りました。農園からはたくさんの種類の野菜を収穫することができ、子どもたちの毎日の食事に使うことができてとても助かっています。

《行政農業担当者》

堆肥化や植物栽培の成功体験を通して住民が自信を持ち、積極的に生活や地域を変えようと活動していることがとても嬉しいです。彼らがより前向きに取り組めるよう、サポート体制を充実していきたいです。

《タブラック小学校生徒》

海辺の清掃やオンラインへの参加を楽しみました。私たちは、他の国がその地域の清潔さをどのように維持しているかを知って驚いています。



インド ビハール州における水・衛生プロジェクト

◎活動地域 | インド ビハール州バーガルプル県

◎助成期間 | 1年目



実施結果

地下水の水質汚染ならびに給水設備の維持管理が課題であるインド ビハール州バーガルプル県において、水質検査およびその結果を踏まえた対応策の実施、給水設備の維持管理の体制を構築することで、人々が持続して安全な飲料水を得られるようになります。また、「モデル」として、現在壊れたままになっている井戸などの給水設備を改修・整備するほか、医療体制が整っていない農村部においてコロナ感染が爆発的に拡大したことをうけて、人々が手洗い等の衛生習慣を継続して実施するよう、学校や母子保健センター、コミュニティにおいて衛生習慣の啓発を実施しています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
故障していた給水設備(手押しポンプ式井戸等)の修理	10基	▶ 13基
受益者数(実人数)	2,000人	▶ 3,572人
衛生教育参加人数(のべ人数)	2,500人	▶ 15,673人



修理前の井戸

修理後の井戸

► 活動に関わった方の声

《チャンダ・デヴィさん:30代女性》

ウォーターエイドが手押しポンプを修復する前は、いつも水が溜まり、汚れていて、病気の恐れがありました。ウォーターエイドの改修と排水溝建設のおかげで、私たちはこれらの問題から解放され、清潔できれいな水を利用できるようになりました。

《アキレッシュ・ランジャンさん:40代男性》

水質モニタリングに関するトレーニングによって、私たちの村のために水質を監視できるようになりました。研修を受けるまでは、私たちの責任や水質の重要性を認識していませんでした。



学校における衛生セッション

ホープ・インターナショナル開発機構は、「住む場所に関係なく、すべての人々が生きていくために必要で基本的な権利が保障され、それが持つ能力を十分に發揮できる機会が与えられるべきだ」という信念のもと、活動を行っています。途上国の中でも最も貧しい人々が技術・知識を身に付けられるプロジェクトや、身近にあるものを有効活用することで、経済的に自立したコミュニティが作れるような開発活動に取り組んでいます。



完成した新しいトイレの前で

©HOPE Japan



教えて!トイレにまつわる保健と衛生について

◎活動地域 | エチオピア 南エチオピア州オイダ地区

◎助成期間 | 1年目

本プロジェクトでは、エチオピア・バガラ郡に位置するバガラ小学校の児童における保健と衛生面の改善を目的として学校トイレ女児用1基4個室の建設を行います。また過去2回のTOTO水環境基金による学校トイレの建設を通じ、コミュニティおよび学校の児童が「生理」について適切な知識と生理用品がないことから不衛生な状況であることが判明したことから、学校トイレと衛生啓発活動のみならず、児童や保護者に対して生理について理解を深めるための授業も実施します。加えて「Girlsクラブ」の立ち上げを通じて、児童が生理などについて相談できるようなクラブ活動をサポートしていきます。

実施結果

バガラ小学校に手洗い場つきの学校トイレ(4個室)を建設し、衛生啓発活動も同時に実施しました。既存のトイレは1個室のみで汚物で汚れており、児童たちが安心して利用できる状況ではありませんでした。新しいトイレの脇に手洗い場を設け衛生環境が改善され、勉学に励む環境が整備されました。また、新たな取り組みとして生理に関する授業を行いました。知識もないまま突然迎える生理の恐怖を女子児童から聞き、不適切な処理が行われている現状を目の当たりにし、課題の大きさを感じました。布ナプキンを提供し、トイレの利用そして生理に関して人との尊厳が守られるインパクトの大きい活動になりました。

<定量成果>

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	70回	90回
活動参加人数	450人	500人
学校トイレ設置	1基	1基
手洗い場設置	1箇所	1箇所
受益者数(実人数)	450人	450人
衛生教育参加人数(のべ人数)	1,200人	1,200人



トイレ建設活動

► 活動に関わった方の声

《3・4年生児童》

きれいなトイレを利用できるようになって嬉しいです。手洗い場もできて清潔に利用できるようになったので、清潔に保てるように頑張って掃除をしていこうと思います。

《バガラ小学校校長》

これまでのトイレは大変汚く汚物で汚れていたため、児童たちが使いたがらませんでした。プライバシーが守られたトイレを設置してもらい、子どもたち、特に女性児童がトイレを安心して使えるようになりました。ありがとうございます。

《20代女性》

一晩布ナプキンをつけてみたけど、こんなに着け心地の良いものは初めて。重い荷物を持って市場に行く必要があり、生理の時は本当に大変だったので、これはとても良い!

道普請人は、開発途上国の農村地域の活性化に向けた農民自身による農道整備を支援し、世界の貧困削減に寄与することを目的に、2007年に設立されました。

開発途上国の問題を、現地に適したやり方で、そこに住む人々自身で解決していくことを目指し、エンジニアとして適正技術の開発を進め、現地住民への技術移転、定着化を進めています。多くの開発途上国では農道などのインフラ整備が進んでいないため、その手助けとして、誰にでもできる「土のう工法」による道づくりを中心に活動しています。また、現地の生活環境の改善やコミュニティ住民の生計向上、植樹活動にも取り組んでいます。



環境トーク光景

©道普請人



泉の保護、植林を通じた強靭なコミュニティ整備

◎活動地域 | ウガンダ共和国 ムコノ県 ナキスンガ副郡

◎助成期間 | 1年目



ムコノ県では、安全な水へのアクセスが課題であり、一つの給水ポイントでの集水が過密しています。また、小学校では燃費の悪い旧式かまどを使用しており、給食の準備がままならない上、薪を大量使用するため地域の森林伐採に拍車をかけている状態です。本プロジェクトでは、水へのアクセスと環境保全に着目し、県内で水へのアクセスが最も乏しいナキスンガ副郡にて新たに泉の水源保護設備を設置します。また、ナマクワ小学校にて環境クラブの生徒と育苗・植林を行い、環境意識を醸成すると共に地域の森林保全に寄与していきます。

ムコノ県では、安全な水へのアクセスが非常に低いルセラ村の泉を保護し、蛇口と家畜の水飲み場を設置することによって、住民700名の水へのアクセスが容易になりました。また、ナマクワ小学校に育苗場を設置し、環境クラブの生徒70名が主体で育苗に取り組み、16,030株の苗木を生産することができました。育苗を頑張った証に小学生179名に文房具をプレゼントし、生徒の家族に多大に感謝されました。

3村の住民や小学生に対しては、安全な水利用、衛生、環境啓発ワークショップを実施し、コミュニティ全体の意識改革と行動変容に貢献しました。

実施結果

安全な水へのアクセスが非常に低いルセラ村の泉を保護し、蛇口と家畜の水飲み場を設置することによって、住民700名の水へのアクセスが容易になりました。また、ナマクワ小学校に育苗場を設置し、環境クラブの生徒70名が主体で育苗に取り組み、16,030株の苗木を生産することができました。育苗を頑張った証に小学生179名に文房具をプレゼントし、生徒の家族に多大に感謝されました。

<定量成果>

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	11回	15回
活動参加人数	238人	278人
植樹本数	15,000本	16,030本 計16種
保全整備した面積	15ha	15ha
環境教育参加人数(のべ人数)	100人	100人
「ルセラ村泉の水源保護施設」設置	1基	1基
「ナマクワ小学校育苗場」設置	1箇所	1箇所
受益者数(実人数)	800人	800人
衛生教育参加人数(のべ人数)	150人	131人



泉の保護・整備

©道普請人

► 活動に関わった方の声

<定量成果>



ナプキン配布

《70代女性》

整備された泉のすぐ近くに20年以上住んでいます。泉の水は汚く、かろうじて洗濯には使えましたが、調理に使う水は隣村の井戸まで汲みに行っていました。年をとっているので、遠くまで水を汲みに行って運ぶのが大変でした。このプロジェクトで泉を保護してくれて蛇口もついたので、綺麗な水が簡単に汲めるようになってとても嬉しいです。ありがとうございました。

《小学校7年生女子》

育苗場での活動に参加することで、苗床作成、種まき、ポットへの植替えなど色々なスキルを学びました。育苗管理に加え、木を植えることで環境保全に繋がることも知りました。環境啓発のワークショップでは、気候変動の意味やその影響、そして植林がその影響を食い止める一助となることも学ぶことができました。



子どもたちによる育苗活動

©道普請人

12 NPO法人 コンフロントワールド

[代表者] 荒井 昭則

第18回
1年目
海外

コンフロントワールドは、「不条理の無い世界の実現=生活と権利が保障され、誰もが自分で未来を決められる社会の実現」を目的に2018年に設立された国際協力NGO団体です。「紛争・貧困などによって困難な状況にある人々の自律を後押しする」「情報と選択肢を届け、人々の社会貢献を後押しする」の2つをミッションに、学生・社会人スタッフが力を合わせ、学校建設や衛生施設の整備を行っています。



簡易手洗い装置の製作

©コンフロントワールド



ウガンダでのトイレ建設、貯水タンク建設、石鹼生産

◎活動地域 | ウガンダ共和国ブタンバラ県

◎助成期間 | 1年目

ウガンダ共和国の農村部ブタンバラ県では片道2~3時間かけて水を汲みに行く必要があります。学校にも通えない子供が存在しています。また、新型コロナの影響により、石鹼と手洗い設備を手に入れることができなくなっています。現地パートナーNGOと協力し、家庭用トイレ建設、貯水タンク・浄水フィルター建設、石鹼生産施設などのインフラを整備、現地コミュニティへの衛生指導を実施するプロジェクトを推進し、同地域における感染症予防のための水インフラ支援に取り組みます。

実施結果

23年度実績として水衛生事業の受益者は8,000人強という結果になりました。一年を通して衛生教育を推進しながら、家庭用トイレや貯水タンクの建設を行いました。衛生教育は手洗い装置の設置と手洗い指導をメインに実施し、学校や保健センター等の公共施設と家庭に必要物資と情報を届けることができました。また、HIV感染者がいる家庭に優先的にトイレを建設し、感染症や誘拐などの脅威を減らすために尽力しました。現在は地道な活動に思えますが、このような取り組みや教育によって地域全体の衛生意識と衛生状態が向上し、現地住民の経済状況や教育の発展につながっていくことを確信しています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	11回	11回
活動参加人数	102人	102人
学校への貯水タンク建設	1基	1基
家庭用トイレ建設	16箇所	16箇所
受益者数(実人数)	5,962人	8,352人
衛生教育参加人数(のべ人数)	5,750人	8,040人

► 活動に関わった方の声

《現地NGO関係者》

1棟のトイレにつき、用を足すための2つのピット(穴)と、洗身施設があります。特に子どもがHIV陽性者の家庭にトイレを建設しました。支援いただきありがとうございました。

《ブタンバラ県住民》

学校の近くに貯水タンクがあるため、子どもたちが遠くから水を汲みに行く時間が短縮されました。また、子どもたちが授業に集中できるようになったため、700人の子どもたちの学業成績が向上しています。さらに浄水フィルターの建設により、子どもたちは安全できれいな水を飲むことができるようになりました。



石鹼を使った手洗い指導



家庭用トイレ建設中

13 一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会

[代表者] 榎本 恵

第18回
1年目
海外

モザンビーク共和国では、人口の大半が貧困状態にあり、多くの解決困難な課題を抱えています。モザンビークのいのちをつなぐ会は、そこに生きる人々の生命の尊厳向上に貢献するため、住民一人ひとりが生き抜くために必要な「知識と知恵」を手に入れ、自らの力で解決できるよう支援しています。スラム地区での教育施設の整備・運営、開発の遅れている農村地区での水道インフラの整備や衛生教育の実施、伝統文化をルーツとするアーティストの活動支援など、生活の質を改善する活動を展開しています。



地下タンクの穴掘り

©モザンビークのいのちをつなぐ会



モザンビーク共和国・紛争避難施設の水環境整備活動

◎活動地域 | モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバ

◎助成期間 | 1年目



モザンビーク北部で激化するテロ・紛争の避難民が流入するペンバ市において、当会が建設した避難施設・ナティティ平和の家(Casa de Paz)に昨年度設置した深井戸からの給水方法をスムーズにするために給水タワーを設置。またエスパンサオン地区に共同水汲み場を新設し、本活動で地下タンクを整備します。モザンビーク北部のテロ・紛争避難民を含めたスラムの住民が、円滑かつ効率的に安全な水にアクセスできることで、住民の生命を守ると同時に、衛生的な暮らしの改善に貢献します。

ナティティ平和の家において、深井戸からの給水方法をスムーズにするために建設した給水タワーにより、これまで外壁からの給水が不安定で苦しんでいたスラムの住民に大変喜ばれています。加えて、地下タンクにゴミが入り込まないように鉄筋製の頑丈な蓋を設置したことで常に衛生的な水が得られるようになりました。またエスパンサオン地区においては共同水場を新設、地下タンクを整備したことにより、住民たちが円滑かつ効率的に、安全な水にアクセスできるようになりました。調査結果から当地区では水道を敷設しても水が出ないことが判明していることから、次年度以降に手掘り深井戸を掘削して水不足の解消を図っていきます。これらにより、両地区の約10,000人の住民たちの水・衛生環境の改善に貢献することができました。

実施結果

〈定量成果〉

	計画値	結果
活動参加人数	50人	47人
「地下タンク蓋、給水塔、地下タンク」設置	4基	3基
「ナティティ平和の家 エスパンサオン共同水場」設置	2箇所	2箇所
受益者数(実人数)	10,050人	10,035人



地下タンクの蓋づくり



給水塔工事

► 活動に関わった方の声

《スラムの住民:10代女子》

蛇口から水がでる量が多くなった。うれしい。

《避難民:20代女性》

いつも遠くまで水を買いに行っているので、水汲み場ができるのはとてもいい。

《スラムの住民:30代女性》

蓋の設置でタンクの中にゴミが入らなくなって、きれいになった。

《平和家の住民:30代女性》

みんなのためにたくさん的人が働いてくれてすごいと思った。

篠路福移湿原(しのろふくいしつげん)は札幌市に残るわずかな湿原です。この湿原にはカラカネイトンボをはじめ貴重な生き物たちが生息していますが、近隣業者による埋め立てで消えようとしています。当会は、湿原に残る自然を子どもたちの故郷として残したいと強く思った地元の市民と当時の札幌拓北高校理科研究部顧問により1997年に設立されました。札幌市北区あいの里地区を中心に、篠路福移湿原保全・保護活動をはじめ、身近な自然を守る活動を行っています。



参加者の集合写真



あいの里でトンボを指標に豊かな水環境をつくろう!

◎活動地域 | 北海道札幌市北区あいの里

◎助成期間 | 2年目

札幌市北区あいの里・篠路福移地区の水環境を継続して豊かにするために、地域住民の方と共同で池沼の浚渫作業や湿原植物の植栽、ヤナギや外来性草本などの除去を行い、準絶滅危惧種に指定されているカラカネイトンボ(体長2.5cm)をはじめとする湿原の動植物の保全を目指します。また、大学生がリーダーとなり、高校生と共にトンボを指標とした環境調査を行うことで、生物や自然環境に興味を持ち、具体的な活動を実践できる人材の育成へつなげていきます。

実施結果

今年度は新型コロナが5類に移行したことを受け、全てのイベントをコロナ前と同じ形式で行うことができました。イベントは、回観板での案内や当会のHP、SNSの他に、口コミなどで広めていただいたことも相まって参加者の8割以上が地元住民の参加でした。プロジェクト名でもある「トンボを指標に」の部分については、浚渫作業の効果により、高い多様性を保つことができています。事務局の運営にはまだまだ改善できる点があると考えており、今年度の活動の振り返りを2024年度に活かしていきたいと思っています。

<定量成果>

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	9回	▶ 10回
活動参加人数	110人	▶ 202人
ゴミ回収量	10kg	▶ 20kg
植樹本数	300本	▶ 500本 ノハナショウブ、タチギボウシ、エゾリンドウ、サワギキョウ
保全整備した面積	300m ²	▶ 400m ²
有害生物の除去	100kg	▶ 150kg ミクリ、ヨシ
環境教育参加人数(のべ人数)	50人	▶ 86人

<活動に関わった方の声>

《10代男性》
1年足らずの間に採れるトンボが変わっていることにとても驚いた。

《40代男性》
自然環境を守っていくことの大切さと難しさを身をもって知ることができた。

《20代男性》
高校生のとき以来に参加したが、改めて大変な作業であると実感できた。と同時にとても楽しかった。

《大学生》
アキアカネが大幅に減少し、ナツアカネだらけになってしまっていることに非常に驚いた。来年以降の動向がとても気になる。



トンボ池の整備



湿原での生物調査

子どもたちが裸足で走れる砂浜を取り戻したいとの思いから、初期メンバー3人で2010年に団体を設立しました。スポーツという手段を用いることによって、防犯と環境分野における課題の解決を目的とした活動を進めています。活動を通じて、個々人のウェルビーイングが高まり、心豊かに暮らせる社会の実現を目指します。



冒険ゴミ拾い「ADVENTURE Lite」



子どもの意欲を育む環境教育プログラムの展開

◎活動地域 | 福岡県宗像市

◎助成期間 | 2年目



これまでの活動の中で、環境意識の高い参加者に対して「どのようなきっかけでそのような意識が醸成されたのか?」と問い合わせてみると、共通していたのは子ども時代の経験でした。それは釣りであったり、マリンスポーツであったり、家族と海で遊んだ思い出であったり。子ども時代の“心が動く”経験の有無が、海辺の環境改善のための強い動機づけになっていることを知りました。しかし昨今では、子どもたちの遊びが多様化しており、海で遊んだ経験が乏しい子どもたちが増えています。未来を担う子どもたちに向けて、海との強い結びつきを感じる、心が動く体験をつくることを本プロジェクトの目的としています。

2回の子ども向け海岸清掃などを通じて子どもたちの環境に対する意識を高め、海を大切にすることができた。離島で行った取り組みでは地域社会との連携も感じてもらい、持続可能な未来への一歩となりました。自分たちが暮らす地域をさらに知る機会にもなったと思います。計画より多くの参加者を募ることができましたが、今後は企画内容をさらに充実させること、引き続き活動を継続していくことで、より多くの子どもたちに参加してもらい、さらに環境への意識を高めていきたいと考えています。また子どもたちの自律的な活動を促すような内容も盛り込み、充実を図っていきたいと考えています。

<定量成果>

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	2回	▶ 2回
活動参加人数	40人	▶ 83人
ゴミ回収量	200kg	▶ 180kg

<活動に関わった方の声>

《小学生》
外国のゴミもたくさんあって、他の人にもむやみにゴミを捨てないように呼びかけようと思った。

《中学生》
砂浜に大きなゴミが落ちていることに驚いた。どこにゴミを捨てても海に流れていくことになるので、ゴミを捨てないようにしようと思った。

《高校生ボランティア:女性》
たくさんの刺激をもらえる良い経験ができたと思います。

《保護者:40代男性》
子どもたちが環境について考える非常に良い機会になった。



地元の漁師さんと橋漕ぎ体験



オリジナルのトングを作る

16 一般社団法人 ふくおかFUN

[代表者] 大神 弘太朗

第17回
2年目
国内

福岡市に面する博多湾は、多様な生物の生育空間としての機能を持つ一方で、河川からの生活排水の流入による汚染等で、生態系を脅かす課題を抱えています。当団体は、博多湾の魅力や課題、自然の不思議・素晴らしさを、ダイバーの目線から多くの方に伝えることで水環境を守っていくことを目的に2014年に設立しました。「自然伝承」を理念に掲げ、人々がふるさとの海を誇りに思い、豊かな自然が次の世代に伝承されていくことを目指しています。



FUNクリーンアップデー

©ふくおかFUN



「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成プロジェクト

◎活動地域 | 福岡県 博多湾および、その近海

◎助成期間 | 2年目

海洋生物の作用により大気中から海中へ吸収された二酸化炭素由来の炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、海草や海藻が繁茂する藻場はこの吸収源として脱炭素社会に繋がる重要な機能を有していると注目されています。しかしながら、博多湾の藻場は減少傾向にあり、そこで形成されている生物多様性もまた失われつつあります。

本プロジェクトでは、藻場の減少により失われつつある生物多様性を保全するため、福岡の海において「海を元気にする海草」アマモの再生・造成活動を行います。

アマモを増やすことにより、浅海域の磯焼け、貧酸素、地球温暖化といった様々な海の問題解決を目指すとともに、地域社会に向けた発信・啓発を行うことで、豊かな海づくりに繋げていきます。

実施結果

「ダイバーだからこそ」の視点を以て海の魅力を十分に発信しながら、アマモ場の再生・造成活動を実施することができました。アマモ花枝の採取・種子の選別・苗の植え付け・種子の投げ入れなどをリアルに体感できる場の中で行ったことで、海洋環境保全への気持ちをポジティブな感情とともに醸成することができたと思います。また、研究・教育機関や漁業関係者などと連携しながら活動を行ったことで、より効果的なアマモ場づくりを実施することができたと考えています。メディア取材も増加し、活動を広く発信することができました。



〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	5回	▶ 11回
活動参加人数	399人	▶ 634人
植樹本数	1,500本	▶ 1,654本 アマモ
環境教育参加人数(のべ人数)	393人	▶ 426人
海へ投げ入れたアマモ種子数	5,000粒	▶ 20,000粒



アマモ種子選別

► 活動に関わった方の声

《参加者:20代》

アマモの花枝を探すのが宝探しのよう、幼少時代と同じくらい夢中になった。

《参加者:30代》

様々な立場の方と同じ思いで活動に取り組めたことは、とても良い経験になった。

《参加者:40代》

「動く機会」「考える機会」になるので、貴重な時間だと感じた。

《参加者:50代》

ひとりではできない体験も、こうやってみんなで体験する機会を作っていただいたことで一步を踏み出すことができた。



小学校での環境授業

17 NPO法人 オオタカ保護基金

[代表者] 遠藤 孝一

第16回

3年目
国内

オオタカ保護基金は、那須野ヶ原において、オオタカの密猟監視を中心とした保護活動を目的に、1989年に設立されました。オオタカをはじめとするワシ・タカ類の調査研究や生息環境の保全活動を通じて、環境保全型社会の構築を推進しています。また、自然の中での遊びを通じ、自然と共に暮らしを学べる「サシバの里自然学校」を運営するなど、幅広い活動を展開しています。



ハス茶の試飲

©オオタカ保護基金



サシバの里 ハスの花咲く水辺と生きもの復活プロジェクト

◎活動地域 | 栃木県芳賀郡市貝町

◎助成期間 | 3年目



実施結果

本年度、ハスの植栽地・保全地が新たに2か所加わり、4か所になりました。これは当初の目標の2倍になります。そのうちの1か所は面積も広く、ハスの花も見事なことから、地域の人にも愛される場所になってきました。また、湿地に生息する希少な水生生物も多数確認されており、年間7回開催した観察会には、町内外からたくさんの子どもたちがこの場所を訪れ、自然や生きものと触れ合うようになりました。ハス茶については、パッケージデザインも完成して、販売まであと一歩のところまで来ました。当初の目標のプロジェクト期間内での販売開始は達成できませんでしたが、今年中には販売開始予定です。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	14回	▶ 36回
活動参加人数	68人	▶ 197人
植樹本数	50本	▶ 30本
保全整備した面積	1,000m ²	▶ 1,000m ²
環境教育参加人数(のべ人数)	40人	▶ 89人



重機を使っての植栽地整備



©オオタカ保護基金
観察会:生き物の説明

► 活動に関わった方の声

《作業の協力者:60代男性》

重機を利用して水路の補修などができて大変ありがたい。

《調査員:60代》

これだけたくさんの希少種がみられるところは、あまりない。

《小学生》

いろいろな生きものが見られて、楽しかった。

《20代:女性》

ニホンアガエルの産卵場所や卵塊を初めて見て感激した。

18 NPO法人 おちかわの里

[代表者] 澤村 あゆみ

おちかわの里は、老後住みやすい町、ワーキング世代にとっては週末のんびり過ごせる町、子育てしやすい町、子どもがのびのび育つ町、そして地域で多世代の交流がますますさかんな町づくりに寄与することを目的に2020年に設立されました。「落川交流センター」を拠点に、地元自治会と複数の市民活動団体が協働で地域交流を促進するよう、さまざまな活動を展開しています。



落川交流センター・森と水の再生事業

◎活動地域 | 東京都日野市落川
◎助成期間 | 3年目

「落川交流センター」の雑木林は、敷地内の雑木林の樹齢が高くなり、人が踏み固めるため若木が育たず、瀕死の森になっています。そこを利用する市民とともに、ワークショップ形式で地中の水と空気の循環を取り戻し、森を再生させます。また、敷地内の防災井戸、ビオトープ、田んぼ、森を通じた水の循環を取り戻し、田んぼの生き物調査で生物の多様性を取り戻すことを実証していきます。



19 NPO法人 暮らし・つながる森里川海

[代表者] 真井 勝之

自然の遊び場「馬入水辺の楽校」を活動拠点に、地域の自然環境の保護・保全活動、川の自然と触れ合える場づくり、子どもたちを対象にした環境学習活動の実践に取り組んでいます。2001年4月に設立。運営体制を強化し、運動の輪を地域へ広げようと、2017年5月にNPO法人に生まれ変わりました。ウナギの棲む川づくり運動や生き物の王国づくりなど、人と生き物が共存したまちづくり運動に取り組んでいます。



◎活動地域 | 神奈川県平塚市
◎助成期間 | 3年目

馬入水辺の楽校のフィールドミュージアム化を目指し、市民参加による「見える化プロジェクト」を展開し、自然生態園としての機能整備に取り組みます。「森と海はつながる」をコンセプトに相模川流域での自然環境の保全活動、環境教育活動を実践します。これらの活動を通して、馬入水辺の楽校の長期運営の仕組みづくりを構築する中、環境市民の育成を図り、当法人の活動基盤の強化に結びづけていきます。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	19回	▶ 13回
活動参加人数	251人	▶ 281人
植樹本数	0本	▶ 8本
保全整備した面積	3,000m ²	▶ 3,000m ²
環境教育参加人数(べ人数)	50人	▶ 72人

► 活動に関わった方の声

《30代女性》
最初はどこを刈ればよいのかわからなかったけど、自然が作る形に合わせて草刈をするという目で風景を見たら、風が通る道が分かった気がする。

《30代母》
子どもが、汚れてもいいと思ったとん、こんなにも田んぼの中で泥だらけではしゃいで遊ぶとは思いませんでした。なんて楽しそうな顔で笑うんだろう。

《小学校6年生女子》
爪の先ほど小さな虫も、マイクロスコープで拡大してみると、動きがユーモラスだったり可愛かったりするのが、新鮮だった。

実施結果

3年間かけてきた森の改善活動ですが、1年目にはこれまで花をつけなかった桜が満開になり、2年目には野原の真ん中に泉が湧き出して水路を作り、周囲の植生が変わってくるという大きな変化がありました。3年目は、その変化を確かめるべく、園内で見られる植物や鳥、昆虫などを調べ、イラストでわかる園内生き物マップを完成させました。これにより、公園に足を運んだ方がが、みずみずしく蘇った園内の様子や、それによって多様に見られるようになった植物や生き物に興味と愛着を持ってくれるようになったと思います。



◎活動地域 | 神奈川県平塚市
◎助成期間 | 3年目

馬入水辺の楽校のフィールドミュージアム化を目指し、草刈りなどの環境管理活動やバタフライガーデンづくり、生きもの広場づくり、自然ガイド版の設置などに取り組みました。また、お魚調べや川の自然楽校、夜の生きもの調査など多様な催しを開催しました。SDGs運動を促進するため「湘南ピクニック土手の下のSDGs」や初の試みである大展示会を開催し、活動のPRも行いました。結果として、催し回数75回、参加者数1,945人の成果を上げることができ、毎日地球未来賞の大賞を受賞いたしました。

実施結果

馬入水辺の楽校のフィールドミュージアム化を目指し、草刈りなどの環境管理活動やバタフライガーデンづくり、生きもの広場づくり、自然ガイド版の設置などに取り組みました。また、お魚調べや川の自然楽校、夜の生きもの調査など多様な催しを開催しました。SDGs運動を促進するため「湘南ピクニック土手の下のSDGs」や初の試みである大展示会を開催し、活動のPRも行いました。結果として、催し回数75回、参加者数1,945人の成果を上げることができ、毎日地球未来賞の大賞を受賞いたしました。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	39回	▶ 75回
活動参加人数	580人	▶ 1,945人

► 活動に関わった方の声

《小学生》
今日はバタフライガーデンを耕しました。途中で雨も降ったりして気持ちよかったです。

《参加した小学生の父》
蜘蛛の巣やコウモリなどそれほど珍しくない生物も、知識を持って観察するといらでも楽しむことができると思いました。

《小学生》
ナイトウォークでは、かっこいいオオミズアオに出会えました。近づいて写真を撮ったけどうまく撮れなくて、何度も何度も挑戦しました。みんなに写真の撮り方を教えてもらって、最後にとってもかっこよくオオミズアオの顔が撮れて嬉しかったです。



環境とくしまネットワークは、広く徳島県民全てに対し、自然と社会の共存のあり方を創造し、自然共生型社会づくりに貢献する活動を行い、地球上の環境と生態系の保全、消費者保護に寄与することを目的に2008年に設立されました。これまでに培ってきた環境や消費者、省エネルギー問題に対する幅広い知識や関連の資格を活かし、環境保護や森林保全、省エネ推進、消費者保護、家づくり支援など、さまざまな活動を推進しています。



夕日に映える流木アート

©環境とくしまネットワーク



せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」再生化プロジェクト



◎活動地域 | 徳島県全域・香川県東部地区

◎助成期間 | 3年目

徳島・鳴門海岸にゴミと打ち上がる空のペットボトル。近年、海洋中のマイクロプラスチックが生態系に及ぼす影響が懸念され、海洋汚染は地球規模で拡大しています。多くのプラスチック製品を生産、消費する日本の私たちも無関係ではなく、地域における海岸漂着物対策の現状に気付き、次世代にどう残し、つないでいくかを活動の目的としています。

海洋プラスチックの問題を「私たちが今取り組むべきこと」と捉え、一人でも多くの方々に、「廃プラ」「サーマルリカバリー」「プラ3R」を考慮して賢く付き合い、瀬戸内の未来を想像して海ゴミ問題に真剣に取り組んでもらうためのアクションを展開できればと考えています。

実施結果

今年度後期には、未完だった瀬戸内地区一部の広域海ゴミ活動のフォローアップ(今治・山口・東香川)を始め、前期で作製した「流木アート」の移設展示(鳴門ウチノ海総合公園内)、せとうち鳴門海岸海ゴミ現状報告パネル展等を開催しました。また、追加特別活動報告会を3箇所(丸亀市・鳴門市2箇所)で開催し、この3年間支援いただいた活動報告として「ゴミ箱化したせとうち」の現状を広く地域市民の方々に周知できました。「脱炭素チャレンジカップ2024」での企業団体賞を受賞し、鳴門市長への活動報告が実現するなど、予想以上の活動成果が達成できました。



©環境とくしまネットワーク



©環境とくしまネットワーク

(定量成果)

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	3回	▶ 14回
活動参加人数	40人	▶ 46人
ゴミ回収量	500kg	▶ 680kg
保全整備した面積	3,020m ²	▶ 3,648m ²
環境教育参加人数(のべ人数)	0人	▶ 379人

➡ 活動に関わった方の声

《脱炭素チャレンジカップ参加者:神奈川県在住40代主婦》

関東からすれば瀬戸内海は遠く、大変きれいな海のイメージがありましたが、今回の最終プレゼンを見て、海岸には想像をはるかに超えた環境問題が山積しており、活動のタイトル「ゴミ箱になった海」はその表現にグッときました。そして、素人芸術家集団が作製したという「流木アート」には大きな興味があります。

《鳴門市環境政策課職員40代男性》

当団体の活動は例年の清掃活動もさることながら、これまで公的ならびに企業系でも現地調査されていなかった鳴門海岸の現状と課題の根拠がよく理解できるのではと報告を楽しみにしています。

これまでの助成先団体一覧(国内)

No.	活動地	団体名
1	北海道	カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク
2		ぱんぱんぱんぶさん
3		森をたてようネットワーク
4		山のない北村の輝き
5	青森	小川原湖自然楽校
6	青森	白神山地を守る会
7	岩手	紫波みらい研究所(代表団体)
8	岩手	わが流域環境ネット
9	宮城	梅田川せせらぎ緑道を考える会
10	宮城	川崎町の資源をいかす会
11	宮城	カワラバン
12	宮城	小泉ユニバーサルビーチユニット
13	宮城	宮城県淡水魚類研究会
14	宮城	杜の都仙台ナショナルトラスト
15	宮城	リアスの森応援隊
16	山形	鮎川村自然保護委員会
17	山形	庄内自然博物園構想推進協議会
18	茨城	Water Doors
19	茨城	NPO環～WA
20	茨城	御前山ダム環境センター
21	栃木	オオタカ保護基金
22	栃木	わたらせ未来基金
23	群馬	さなざわ里山だんだんの会
24	群馬	緑の家学校
25	埼玉	比企自然学校
26	千葉	印旛沼広域環境研究会
27	千葉	印旛野菜いかだの会
28	千葉	さざなみ
29	千葉	しろい環境塾
30	千葉	ふるさと生きがいづくり
31	千葉	ほたる野を守るNORAの会
32	千葉	森のライフスタイル研究所
33	千葉	八千代市ほたるの里づくり実行委員会
34	東京	荒川クリーンエイド・フォーラム
35	東京	おちかわの里
36	東京	白子川源流・水辺の会
37	東京	ぜんかんれん
38	東京	DEXTE-K
39	東京	森のライフスタイル研究所
40	神奈川	海×TECHプロジェクト実行委員会
41	神奈川	海の森・山の森事務局

No.	活動地	団体名
42	関東	エバーラスティング・ネイチャー
43		おさかなポストの会
44		暮らし・つながる森里川海
45		小網代野外活動調整会議
46	神奈川	サーフライダーファウンデーションジャパン
47	神奈川	浜っ子トラストチーム
48	神奈川	ほのぼのビーチ茅ヶ崎
49	神奈川	ヨコハマ倉造空間
50	新潟	高根フロンティアクラブ
51	新潟	新潟水辺の会
52	新潟	ねっとわーく福島潟
53	富山	金山里山の会
54	富山	福光ふるさとの森を再生する会
55	石川	金沢エコライフ事業実行委員会
56	福井	アマモソポーターズ
57	山梨	えがおつなげ
58	山梨	ゼロファクトリー
59	長野	ステップアップゼミ
60	岐阜	MY
61	岐阜	大富山を愛する会
62	静岡	浜松NPOネットワークセンター
63	静岡	はるの山の楽校
64	愛知	ClearWaterProject
65	愛知	虹のとびら
66	愛知	ネイチャーカラブ東海
67	三重	海っ子の森
68	滋賀	神山区いい顔づくり委員会
69	滋賀	清水川湧遊会
70	滋賀	たかしま有機農法研究会
71	滋賀	旅するおさかなソーター
72	滋賀	家棟川流域観光船
73	滋賀	夢工房
74	京都	川と海つながり共創プロジェクト
75	京都	水源の里連絡協議会
76	京都	プロジェクト保津川
77	京都	ほたる祭改善プロジェクト委員会
78	大阪	環境教育技術振興会
79	大阪	大阪みどりのトラスト協会
80	大阪	花だんごネットワーク
81	大阪	ふくでく
82	兵庫	「峠池」を考える会

これまでの助成先団体一覧(国内)

No.	活動地	団体名
近畿	83 兵 庫	アンビシャス コーポレーション
	84 兵 庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project
	85 兵 庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会
	86 兵 庫	武庫川の治水を考える連絡協議会
	87 奈 良	景観ボランティア明日香
	88 奈 良	自然再生と自然保護区のための基金
	89 和歌山	ゴミング・ゴミ拾いネットワーク
中国	90 鳥 取	山王さん周辺活性化協議会
	91 島 根	飯梨川再生ネット
	92 島 根	千鳥のお塙を学ぶ会
	93 岡 山	水島地域環境再生財団
	94 広 島	大羽谷川流域の環境を考える会
	95 広 島	京橋川かいわい あしがるクラブ
	96 広 島	酒屋地区自治会連合会
	97 広 島	もりメイト倶楽部Hiroshima
	98 山 口	小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会
	99 徳 島	川塾
四国	100 徳 島	環境とくしまネットワーク
	101 愛 媛	エコ・ライフ夢幻村
	102 愛 媛	久保・肱川源流を想う会
	103 愛 媛	宮前川クリーンネット
	104 高 知	こうち森林救援隊
	105 高 知	しまんと黒尊むら
	106 高 知	大正中津川「やまびこ会」
	107 高 知	橘若者会
	108 高 知	西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
	109 福 岡	アクアリング委員会
九州	110 福 岡	遠賀川流域住民の会
	111 福 岡	改革プロジェクト
	112 福 岡	香月・黒川 ほたるを守る会
	113 福 岡	笹尾川水辺の楽校運営協議会
	114 福 岡	津古ふるさと会
	115 福 岡	つやざき千軒いきいき夢の会
	116 福 岡	中谷地区まちづくり協議会
	117 福 岡	東朽網校区まちづくり協議会
	118 福 岡	火山里山保全交流会
	119 福 岡	ふくおかFUN
	120 福 岡	横代校区まちづくり協議会
	121 熊 本	次世代のためにがんばろ会
	122 熊 本	どんぐりプラットホーム
	123 熊 本	やまんたろ カわんたろの会

これまでの助成先団体一覧(海外)

No.	活動地	団体名
九州	124 大 分	エー・ビー・シー野外教育センター
	125 大 分	おおいた環境保全フォーラム
	126 大 分	佐伯広域森林組合
	127 大 分	関の江海岸の自然を守る会
	128 大 分	冷川のホタルと親しむ会
	129 大 分	水辺に遊ぶ会
	130 宮 崎	MFV会
	131 宮 崎	高千穂森の会
	132 宮 崎	日本スキムボード協会
	133 宮 崎	みやざき技術士の会
	134 鹿児島	郡山マグニチュード21
	135 沖 縄	おきなわ環境塾
	136 沖 縄	オン・ザ・ロード
	137 沖 縄	宜野湾の美ら海を考える会
	138 沖 縄	珊瑚舎スコレ

No.	活動地	団体名
海外	1 インド	ICA文化事業協会
	2 インド	ウォーターエイドジャパン
	3 インド	Deepak Foundation
	4 インド	日本水フォーラム
	5 インドネシア	オイスカ
	6 インドネシア	日本インドネシアNGOネットワーク
	7 カンボジア	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia
	8 中 国	環境資源保全研究会
	9 中 国	ひふみや【自然農法】
	10 ネパール	ウォーターエイドジャパン
	11 ネパール	ミランクラブジャパン
	12 パキスタン・イスラム	難民を助ける会
	13 バングラデシュ	日本下水文化研究会
	14 東ティモール	ウォーターエイドジャパン
	15 フィリピン	アジア協会アジア友の会
	16 フィリピン	イカオ・アコ
	17 フィリピン	ハロハロ
	18 フィリピン	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

No.	活動地	団体名
19	ベトナム	国際開発救援財団
20	ベトナム	国際海洋科学技術協会
21	ベトナム	プラン・インターナショナル・ジャパン
22	ミャンマー	アジアチャイルドサポート
23	ミャンマー	オイスカ
24	ミャンマー	ブリッジ エーシア ジャパン
25	ウガンダ	コンフロントワールド
26	ウガンダ	難民を助ける会
27	ウガンダ	道普請人
28	エスワティニ	ウォーターエイドジャパン
29	エチオピア	ホープ・インターナショナル開発機構
30	ケニア	STAND ALIVE
31	ケニア	Team NAKUSCO (長崎ケニア住血吸虫症制圧大作戦)
32	ケニア	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
33	ケニア	道普請人
34	スーダン	ホープフル・タッチ
35	スーダン	ロシナンテス
36	モザンビーク	モザンビークのいのちをつなぐ会

これまでの助成状況

回	期 間	金 額	団体数
第1回	2005年 10月～2006年 9月	1,090万円	12
第2回	2006年 10月～2007年 9月	1,560万円	12
第3回	2007年 10月～2010年 9月	8,051万円	29
第4回	2008年 10月～2009年 9月	1,200万円	16
第5回	2009年 10月～2010年 9月	1,102万円	18
第6回	2010年 10月～2011年 9月	751万円	10
第7回	2012年 4月～2013年 3月	980万円	16
第8回	2013年 4月～2014年 3月	1,007万円	20
第9回	2014年 4月～2015年 3月	1,300万円	25
第10回	2015年 4月～2016年 3月	1,430万円	22

※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。

累計 4億7,149万円 のべ316団体

TOTOグループが取

TOTOグループでは、日本におけるTOTO水環境基金以外にも国内・海外で

り組む環境貢献活動

様々な環境貢献活動を行っています。主な取り組みをご紹介いたします。

中華環境保護基金会 TOTO水環境基金

2008年に中国における「TOTO水環境基金」として設立し、これまでに孤児院への商品寄付や水環境に関する教育、大学生への奨学金支給、給水設備建設支援など、中国大陸における節水・水資源の保全に寄与してきました。

2021年には中国民政部主宰のメディア団体である公益時報から中国での優秀なCSR活動企業として「2021中国企業社会責任観察報告」優秀事例に入選しました。



小学校向け節水授業

地域の小学校に出前授業を行い、身近な生活での節水が、地球環境や水資源の保全に加え、CO₂削減につながることを学んでもらう環境教育を行っています。



植樹活動

日本では「TOTOどんぐりの森づくり」を2006年に開始。社員が自分たちの手で拾ったどんぐりを職場や家庭などで育てて森に返し、地域の皆様のご協力のもと植樹後も草刈りなどを行っています。

また、海外グループ会社でも、植樹活動を定期的に実施し、環境保護への貢献に加え、社員とその家族の環境保護意識の向上を図っています。



清掃活動

TOTOグループでは世界中の拠点で周辺清掃を実施しています。

清掃活動を通じて、その地域で事業活動をしている感謝の気持ちをあらわすとともに、海洋ごみの多くが陸地からのごみが原因となっているということをグループで共有し、海洋ごみの削減という目的意識も持って、地球環境の保全に貢献しています。

